

## 「富富富」の生育状況と技術対策

### 1 「富富富」の生育概況

「富富富」の生育は、前年に比べ、草丈は長めに推移し、 $m^2$ 当り茎数はやや多く、葉色および葉齢の展開は前年並となっている。

今後、平年並みの気温で推移した場合、幼穂形成期は前年並の7月12日頃(5月14日植え)と見込まれる。

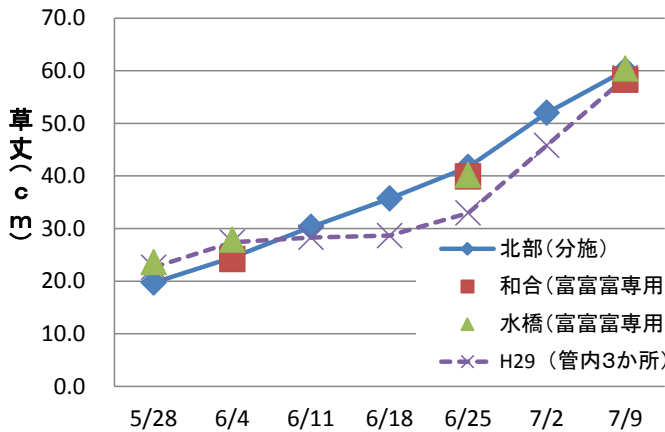


図1 草丈の推移

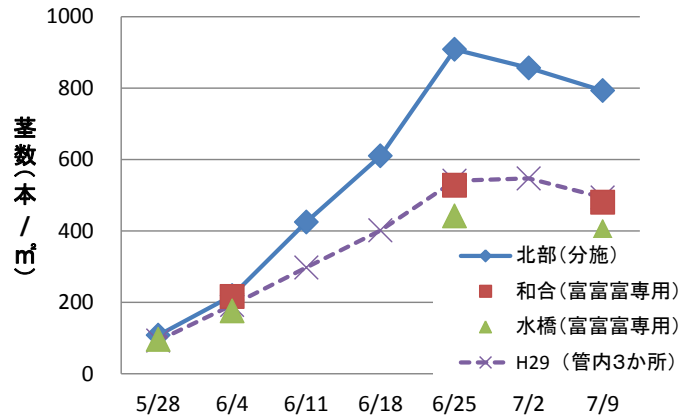


図2 茎数の推移

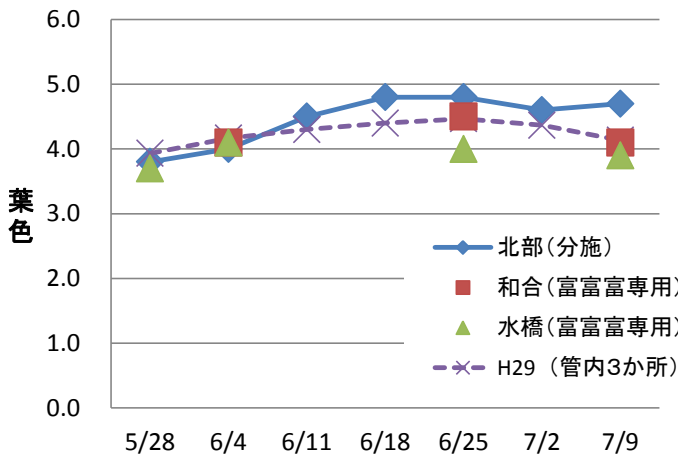


図3 葉色の推移

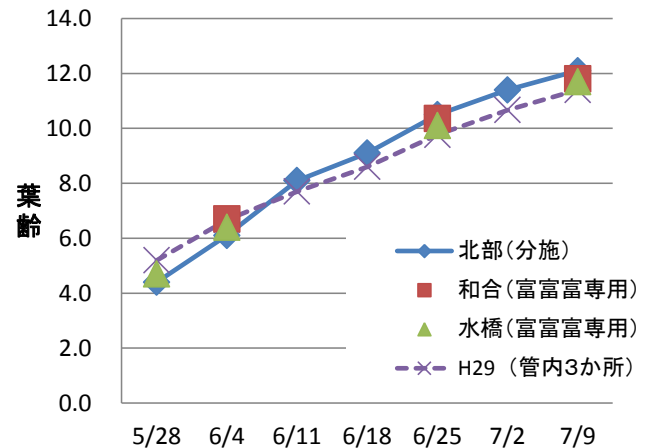


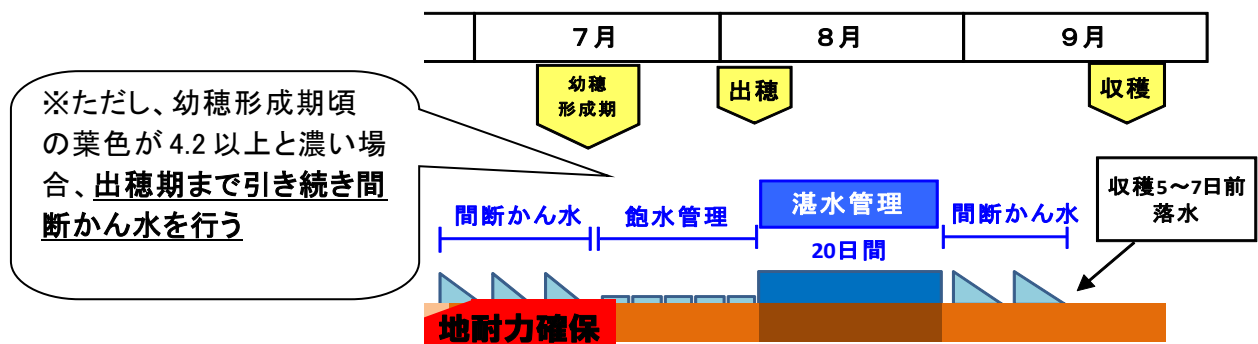
図4 葉齢の推移

### 2 今後の技術対策

#### (1) 水管理

- ・今後、高温で推移することが予報されており、**田面が乾きすぎないように注意する。**

- ・稲体の栄養状態の維持のため、幼穂形成期～出穂期まで飽水管理(常に足跡や溝に水が残るくらいの状態を保つ)を行う。
- ・稲体の活力を維持し、胴割米の発生を防ぐため、出穂後 20 日間は湛水管理とし、刈り取り 5～7 日前までは間断かん水を行う。



## (2) 穂肥施用の目安

### ①「富富富」の分施栽培における穂肥施用の基本体系

- 1 回目 幼穂形成期の 5 日後  
→ 追肥 3 号 5～7kg/10a
- 2 回目 1 回目の 5～7 日後  
→ 追肥 3 号 10kg/10a

草丈 (cm)	m <sup>2</sup> 茎数 (本/m <sup>2</sup> )	群落葉色	SPAD
63	480～550	4.0～4.2	38～39

### ②「富富富」分施栽培における穂肥施用の基準

幼穂形成期の生育量	1回目穂肥		2回目穂肥	
	時期	追肥3号 (10aあたり)	時期	追肥3号 (10aあたり)
適正	7/17頃	5～7kg	1回目の5～7日後	10kg
葉色4.2以上または茎数550本/m <sup>2</sup> より多い場合	施用しない		7/22～24頃	10kg

※幼穂形成期頃の葉色が淡い場合は、茎数や地力に応じて施肥量を判断する

### ③「富富富」肥効調節型基肥栽培の管理原則、追加穂肥は施用しない

- ＜追加穂肥を施用しない理由＞
- 適正な基肥量（地域慣行コシヒカリの80%）が施用されている場合、
- ①今後必要な穂肥成分量が溶出すること
  - ②コシヒカリに比べて稲体が小さく、葉色が濃くなりやすいこと
  - ③高温でも品質が低下しにくいこと

## (3) 病虫害および雑草防除

病虫害および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通しての化学合成農薬の成分使用回数が 12 以内となるように留意する。

# 富富富防除体系

成分使用回数(12成分以内)の確認をお願いします

## ●前作 水稲

	防除対象病害虫・雑草	農薬名	成分数
種子消毒	いもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病ほか	テクリードCフロアブル	1
苗箱施薬	いもち病、紋枯病、初期害虫	エバーゴルワイド箱粒剤	4
本田防除 (穂揃期) (傾穂期)	いもち病、カメムシ類	ラブサイドキラップ粉剤/フロアブル	2
	カメムシ類	スタークル粉剤/液剤	1
除草剤	水田1年生雑草	マーシエット1キロ粒剤	1
	水田1年生雑草	ガンガン1キロ粒剤 又は キクンジャーZ 1キロ粒剤	2
		計	11

←12成分以内

随時 除草剤	水田1年生雑草 (ヒエ除く)	バサグラン粒剤/液剤	1
	ヒエ	クリンチャー1キロ粒剤/EW	1
	水田1年生雑草	ワイドアタックSC	1

※いずれか1剤

撒布可能

## ●前作 大豆、大麦

	防除対象病害虫・雑草	農薬名	成分数
種子消毒	いもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病ほか	テクリードCフロアブル	1
苗箱施薬	いもち病、紋枯病、初期害虫	エバーゴルワイド箱粒剤	4
本田防除 (穂揃期) (傾穂期)	いもち病、カメムシ類	ラブサイドキラップ粉剤/フロアブル	2
	カメムシ類	スタークル粉剤/液剤	1
除草剤	水田1年生雑草	ガンガン1キロ粒剤 又は キクンジャーZ 1キロ粒剤	2
		計	10

←12成分以内

随時 除草剤	水田1年生雑草	マーシエット1キロ粒剤	1
	水田1年生雑草 (ヒエ除く)	バサグラン粒剤/液剤	1
	ヒエ	クリンチャー1キロ粒剤/EW	1
	水田1年生雑草	ワイドアタックSC	1

※いずれか2剤

撒布可能

### (4) 異品種の抜き取り等

定期的にはほ場を見回り、漏生稲等が発生していた場合は確実に抜き取る。

